



第29号

2022年(令和4年)1月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

[年2回発行]

時は流れる

社会福祉法人

聖家族会 理事長

西村 和子

新年おめでとうございます。また新しい年が始まりました。いつも思いますが年が改まることに何か希望の光があるようで、やはりうれしい時です。

私が、みさかえの園と関わって、早いもので50年が経過しました。50年前の出来事を振り返ってみました。まだ色々感じる時でしたのでその時のことを一部載せたいと思います。

人間とは

私は約50年前に、初めて障がい者に出会いました。それまで脳卒中の後遺症で体がマヒしている人や、小児麻痺にかかり足などに後遺症を残している人しか知りませんでした。修道会に入会し、志願期を「みさかえの園めぐみの家」で過ごしまし

た。その時の私はまず「人間とは何か」という事につかりました。

それまで人間とは火を使う動物、言葉を話す動物、2本足で歩く動物、とっていました。ところが、みさかえの園には、火を使えない人、言葉を話せず理解できない人、2本の足で歩けない人がいる。人間とは何かという疑問がわいていました。入所者に「あなたは本当に言葉を話せないの、嘘でしょう。本当は話せるのに話さないのでしょうか。」と何度か問いかけました。しかし答えは返ってきませんでした。私にとって信じられない現実でした。

色々考えました。人間から生まれたのだから人間であるという結論に達しました。そしてカトリック要理という学びの中に「人間とは霊魂と

体をもっている」というのを思い出し、どんな姿であれ人としての霊魂と体があるから人としての尊厳があることを学びました。

成人とは

そんな中、私は成人式を迎える時が来ました。私の名前をめぐみの家の入所者と連名で提出しました。その年、町は、成人式に成人証書を障がい者には出さなかったのです。なぜなら障がいがあり成人としての成長がないという判断でした。私もみさかえの園にいたので、成人証書をもえませんでした。両親からは『成人式おめでとう』の祝電が届きました。私はその時まで、人間は生まれて満20年経過すると、すべての人は成人とみなされると考えていました。その時『成人』とは、何かと考えさせられました。どう考えても生まれて20年経てば成人になれる。他の人と比較して、劣っているから成人でないと言えない、その人なりの20年間の時間の歩みがある。それは誰かが、成人とはこのようなものと、線を引くことはできないと考えた記憶が残っています。

もちろん成人証書は1、2か月後にはみさかえの園の入所者にも授与され私もいただきました。

創立から20年間くらは、施設見学者、慰問客がとても多くいらしてくださいました。特にみさかえの園

の中央にあった「むつみの家」はメイン施設でもあり、訪れる方たちは、涙する人も多かったですが、かれらのとても明るく、いきいきとした姿に感動し、自分たちの方が喜びと勇氣・力をいただいたという方が多かったことを覚えています。「あなた方は、世界の光である。山の上にある町は、隠れることができない」(マタイ5:14)

障がい者を取り巻く環境は大きく変化してきています。パラリンピックがあったり、街の中で車いす使用者など障がいを持ついても共に、社会の中に生きている。一人の人權を持った人として扱われるようになっていきます。当たり前のことが当たり前でなかった時代が終わったという事です。

アシジの聖フランシスコは「神の声を聴き、貧しい人の声を聴き、病者の声を聴き、自然の声を聴きました。そして、そのすべてを自分の生き方としたのです。聖フランシスコがまいた種が、多くの人の心で育つことを願っています。」(回勅 教皇フランシスコ 「兄弟の皆さん」より)

このみさかえの園だよりを読んでくださる方々の上に今年も神さまの祝福が沢山降り注ぎますようにお祈り申しあげます。

マリアの風に乗って

法人事務局長 森 信一郎

今回は社会福祉法人の経営から離れて、この地、小長井町遠竹界隈のことをご紹介したいと思います。まだ二年半という短い間の生活ですが、いろんな方とお知り合いになりました。相手の方は私を知り合いではない、と言うかもしれません。

ここでの生活で欠かすことのできないのが「お祈り」です。これは当社会福祉法人の基本理念にもあることから、毎日の朝礼時、会議のはじめには「キリストの母マリア」へお祈りを奉げます。人としてのあり方をわかりやすい日本語で自分自身に語り掛けるように、聖母マリアに誓うものです。私は浄土宗ですから、どうしてお経は難しくできているんだらうかと、この年齢になっても宗教心がない自身に感じします。

そんな私ですから、聖母の騎士修道女会の本部聖堂であった終生誓願式(神との結婚式)に参列した時は、私の生きている次元とは違う「生き方」ということを考えさせられた時

間でした。この時は外国の若い女性二人が10年の修行を経て神に一生を奉げる生活に入られました。

その時、古いオルガンを弾いておられたのが岡立子シスターで、英国で洗礼を受け、ローマ教皇庁立の大学や神学院で「宣教霊性神学」を学び、「マリア論」専攻の神学博士課程を修了しておられるカトリック界では著名な方です。世界を飛び回り、日本各地で講演もしつつ、当法人の評議員でもあられます。「マリアの風に乗って」という、エッセイ集といてもいいのか?教育評論社から本も出版されています。

風が強く吹いたり、やさしくも吹く遠竹の丘ですが、何ととっても有明海を眼下に置き、熊本、大牟田、阿蘇、天気が良ければ遠くはくじゅうまで見えます。

また、ここは多良岳山脈の麓で飲み水に困ることはありません。私は大村に住んでいるので多良岳は大村の頂上にあると思い込んでいましたが、地図をよく見ると頂上は長崎県、佐賀県、諫早市、大村市の境に仲良く位置づけられていました。

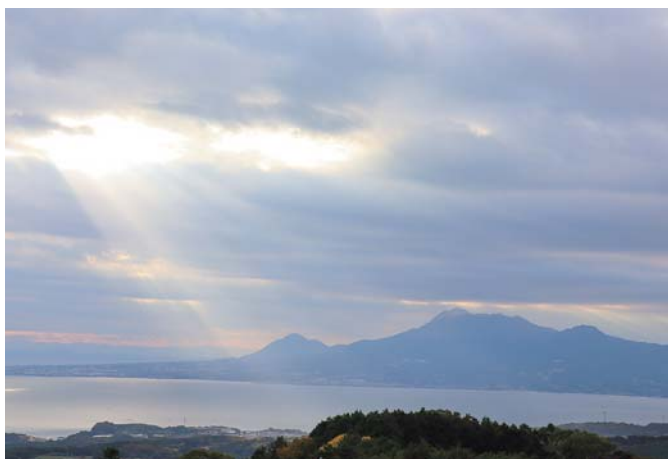
名物は「大きくて旨い野菜」です。土地が肥沃なのか、野菜や花の大きさが倍近く違います。さつまいも

の皮が白くて中味が栗を砂糖で練りこんだような味のを食べた時、これはそのまま菓子あのあんこにできると思った程で、大きさも普通の倍近くあります。里芋を中心とした「いもんこ祭り」があり、野菜の直売もやっておられます。

この2年間、コロナ禍で宣伝もできませんでしたが、小長井方面に出かけの際は、山茶花高原方面へ行く途中の県道沿いの丘にマリア像があります。どうぞ、有明海をバックにマリア像と記念写真を撮ってみてはいかがでしょうか。



愛育の聖母像



雲仙岳を望む

コロナ禍での贈り物

みさかえの園総合発達医療福祉センター むつみの家

施設長 福田 雅文

新型コロナウイルス感染拡大で、利用者の方も職員も自粛生活を余儀なくされました。その代りに素敵な贈り物もありました。むつみの家では感染予防のために病棟単位での活動が中心となりました。リハビリスタッフも外来担当と病棟担当に分けた支援体制となりました。リハ担当スタッフはいつも病棟内で看護、介護、保育スタッフと一緒に協働で活動することになりました。現場で利用者の方の対応に悩むと、すぐにリハスタッフと一緒に考え、専門的な助言、対応をしてくれるので、利用者の方のQOLは大きく改善されました。お陰様で多職種の専門性を生かした新しいチームが出来上がりました。個別的な取り組みは利用者の方にとって、とても喜ばれることです。スタッフとの関係性も深まり、相互の愛着形成が促されて、病棟での心地よい人間関係が形成されていくように思います。近年、人工呼吸器などの高度な医療的ケアを必要とする乳幼児期のお子さんも入所されることが多くなり、発達期には豊かな人間関係と愛着形成は欠かせません。コロナ禍での自粛生活で得られた豊かな人間関係を大切に守っていきたいと思います。

今回は、むつみの家のコロナ禍でのクリスマスの様子をご紹介します。

コロナ感染予防対策に合わせ、3密を避けるため“クリスマスウィーク”としてよりたくさんの人を楽しんでいただけるよう工夫しました。

むつみの家 クリスマスウィーク

12月20日(月)
聖母の騎士高等学校の
みなさんとのリモート交流会



初めてのリモート
交流会
なんだかわくわく
ドキドキします

紙ひこうきグループと学生の
みなさんと一緒にクリスマスソング
♪ジングルベル

ハンドベル演奏
きれいなベルの音
♪リンリンリン
なりひびきます・・・



12月22日(水)
お楽しみ会クリスマススペシャル

やった～
うまくできた！

12月24日(金)
クリスマスの集い

楽しみにしていたクリスマスプレゼント
保護者会のみなさんありがとうございます



会場では人数制限をしていますので
今年もお部屋のテレビでお楽しみ下さい



しっとりした
クリスマスソング
メドレー♪



去年に引き続き、収録やリモートを取り入れ、
これまでにないクリスマス会でしたがひとあじ違って楽しかった～

新人職員が半年経って感じていることを聞いてみました。

新人研修で学んだこと

わくわく広場 小嶺 渚

4月からわくわく広場に勤務しています。むつみの家の職員になってから様々な研修を受け、たくさんのことを学びました。全ての研修において大切なのは、利用者様を第一に考え、行動することだと思いました。「主人公は利用者である」という研修中の言葉がとても印象的で、私たち職員にとっては、むつみは仕事の場ですが、利用者の方々にとっては自宅と同じ生活の場であることを忘れてはいけないと思いました。

また、利用者一人ひとりに合わせた安心安全のハンドブックが作成されていたり、食事形態やアレルギー食への対応など、職員の一つひとつの細やかな気遣いで、利用者様がよりよい生活を送れているのだと思います。わくわく広場でも子どもたち一人ひとりに合わせた支援計画に基づいて療育を行っています。上司の方々に支えられ、できることが増えてきました。新人研修で学んだことを振り返りながら今後も利用者様一人ひとりに目を向け、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきます。

私の新しい大切な場所

デイスペースあん 鵜林 智美

私がこちらに入職し、デイスペースあんに配属になって感動した事が3つあります。

1つ目は、生まれ育った故郷に環境が似ているところです。去年の4月に長崎に移住することになりました。新型コロナウイルス感染拡大で友人にも家族にも会えず、心細い時もありました。そんな中、緑の絨毯のような田畑、青い空、カラスの鳴き声、懐かしさも混じった風景に元気をもらっていました。

2つ目は、今までに身近になかった海に魅了されました。むつみの家を下る坂から見える海はキラキラ光っています。「そのくらい、いいじゃない」と励ましてくれていたみたいで温かい気持ちになります。

3つ目は、はじめの祈りの言葉に深く共感したことです。「小さな人たちのよい手本となり、協力者となつて」とあります。ある日外出行事に参加することとなり、前日に指導を受けました。「明日は私服でいいですよ。利用者さんと一緒に外出する気持ちで楽しみましょう」と言われました。それは、あんでは当たり前前の事なのかもしれません。しか

し、20年老人介護の仕事をしてきた私には新しい考えでした。涙が込み上げてきて必死に堪えたのを憶えています。「協力者」の意味がやっと分かりました。援助する、ケアするばかりを重視し大切なことを忘れていました。時々足元がふらつく時でも、この3つがある事で私は前向きでいられます。

みんなで大きな温かいコタツに入り、みかんの取れない人には誰かが渡し、剥けない人には誰かが剥く。そんな優しくやさしく温かさがぐるぐる巡る場所がデイスペースあんです。ここで働けることを誇りに思い、利用者様と共に生活し、共にいろんな体験をしたいと強く思います。



にじハウス

グループホームりん 短期入所事業開始

介護者の病気などでの緊急時の受け入れ先として、以前から「サテライトセンターで短期入所はできませんか？」との問い合わせや要望を受けていたこともあり、令和3年11月から「グループホームりん」で空床利用型の短期入所事業を開始しました。

場所は、高来町泉にあります「にじハウス」(個室 1ユニット7名)です。

早速、11月に入り1名の方が利用されました。初めての受け入れということで職員も利用者様も不安はあったかと思いますが、少しでも快適に過ごせるようご本人やご家族、相談支援の担当者と話合い、無事利用を終えることができました。

これからも安心して利用していただけるよう工夫しながらサービスを提供していきたいと思っています。



居室

「コロナ禍での日中活動」

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松 公三郎

コロナ禍で、外出が制限されたり、みんなが集まっていた活動ができなかったりと条件付きでの日中活動になって2年になりました。当初は、見えないウィルスを意識しての縮こまった活動に思いましたが、これではいけないと制限の下でも楽しくすごすための工夫が療育スタッフの中から生まれ定着してきたように思います。大勢集まっていたの全体活動ができないのであれば、会場を一箇所に限定せず、密を避けるために施設内のあちらこちらを会場として、時差一巡回式での季節行事を行うようになりました。大掛かりでなくても楽しむ場所がたくさんでき、担当職員と接しながら回るのは、今までにない楽しみ方の方のようでした。また、全体的な活動が少なくなっただけで、個別の活動時間で、創作活動や身体活動が増えて喜ばれているようです。外の空気を楽しんだり、絵や音楽に真剣に打ち込む姿を見ることができました。

命を守りながら、生き生きとした楽しい生活を利用者の方々に提供するにはコロナ禍の中でどうしたらよいのか、これからは大きな命題です。どんな活動においても大事なことは職員自らも楽しめることではないかと思えます。利用者のみならず職員もコロナ禍で制約の中にあります。厳しい状況の中でも明るく楽しむ心を持ち続けることで、ウィズコロナを乗り越えることができるのではないのでしょうか。

「この瞬間を楽しむ」



大村移転後、早いもので3年が経ちました。新型コロナウイルス感染症の影響で、日本のみならず世界中が大きな困難の中にいます。

当施設でも面会・外泊・外出、外食、文教施設の利用など制限せざるを得ませんでした。県内の状況はようやく落ち着き制限緩和に向かっていくものの変異株の出現もあり、利用者の皆様の不自由な生活、我慢の日々はまだまだ続きそうです。

療育サービス支援科では、個々の利用者の人生を少しでも豊かにできるよう、今年度も行事や活動のスタイルを大幅に変更し、利用者分散型のスタイルを継続しつつ可能な限り外との接触・参加を目指しました。インターネットの配信サービスを利用し県警音楽隊のコンサートを観聴しましたが、旧型パソコンのせいで受信に苦労しました。今後は新型パソコンでネットを活用したいと思っています。



季節の行事の他、小グループで楽しめるようなイベントも企画しました。「お花見ドライブ」「ワークショップ」「ヒマワリの種まき」「ボウリング大会」「納涼盆踊り」「ダンスパーティー」、大村市のイベント「チャレンジデー」にも初めて参加しました。

「クリスマスの装飾」



施設の中においても季節を感じてもらえるような装飾を心掛けています。今年度は、段ボール箱やロール芯、木の枝を拾ってきてクリスマス木の装飾を作りました。

コロナの長期化により誰もが不安やストレスを抱えています。あゆみの家を利用される皆様が「楽しい」「心地良い」「癒される」「ワクワクする」時間を過ごして頂けるよう、今後も様々な活動を提供します。

一日も早くいつもの生活に戻ることをできますように。

療育サービス支援科 秋吉 牧子

ワークスペースあん

新年にあたり今年もよろしくお願いいたします。昨年もコロナ禍の中で色々と我慢や制約を強いられる状況が続きました。それでも事業所の授産科目の軸である育苗は、通常の委託受注を受け生産活動内容や利用者さんへの工賃支給にも影響がほとんど見られなかった事は、強みでありました。それと同時に年間計画に沿った生産活動を利用者さんにいつも通り提供できたことは職員も含め、とても大切なことでした。

いつも通り＝当たり前事ができなくなるとリズムが崩れ仕事面はもちろん生活面にまで支障をきたす場合があります。1度崩れ始めると修正に時間を要し工賃支給にも影響が見られます。最大のモチベーションと言っても過言でないほどの工賃支給は、本来の「働く」意欲を維持することです。

そこで改めて事業所内におけるルーティーンの大切さを実感します。ワークスペースあんの1日の始まりの中で大切に継続している2つのルーティーンがありますので今回はご紹介させていただきます。

<朝の申し送り後の指差し確認>職員



右手は人差し指を立てて前に出す

左手はお隣さんの右肩に添える

その後

安心・安全・安堵のあん

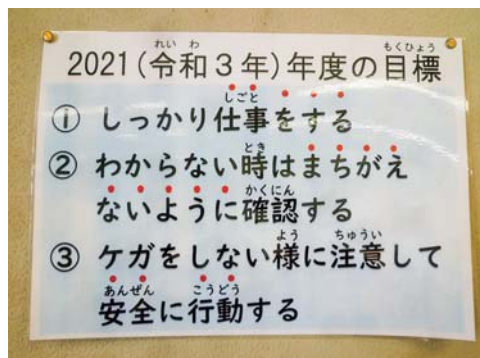
和顔（わげん）・愛語（あいご）に努めましょう

と全員で唱えます。

事業所のモットーを組み入れています。

最後に「今日も宜しくお願いします」で締めくくります。

<朝の会での年間目標の読みあげ>利用者さん



各年度の3月に年間目標について茶話会を兼ねた反省会を実施しています。この目標は、利用者さん全員で振り返り、次年度を決めています。職員は、基本話し合いの見守りです。意見を述べる利用者さんも年々増えて来ており中々決まらない時には、背中を押すような発言も聞かれ職員側も助けられています。

この目標を毎朝、読みあげ士気を高め仕事へ向かいます。

最後は「エイエイオー!!」とジェスチャーもつきます。

<久しぶりの外部でのクリスマス会>



今回は島原市内でボウリングとホテルでの会食を楽しんだ後は、ビンゴゲームと影絵、プレゼント（希望品）をいただいて盛りあがりました。

ティータイムは、カステラランド（愛野町）に行き好きなものを選んで購入し食べました。

作業依頼も固定先が少しずつ増えており私たちの作業技術と品質が認められていると自負しております。利用者さんの生き生きとした働く姿には、目を見張るものがあります。（サービス管理責任者 門脇 直子）

Tさんのこと

第二めぐみの家

施設長 齋木 初江

「クリスマスはごちそうでると？」12月のはじめに廊下を通りかかった私に声をかけたTさん。数か月前の状態を考えると、思いもしないことばで驚きだった。

Tさんは病のため8月下旬から9月中旬まで入院されたが、退院後は食事を「食べない」「いらない」、薬も「いやだ」と言われ、水分だけでもと支援員や看護師が声をかけながらTさんに寄り添った。

そうこうするうち、再び体調不良のため9月下旬に入院しなければならぬ羽目になった。入院中もまた、食事は摂れなかったようで、お

まけにコロナのため面会もできずTさんにかけることもなかった。

「退院できるのだろうか、退院しても食事を摂ることができるのだろうか・・」といつも不安な気持ちで過ごしていたが、11月10日に当施設の看護師の尽力により無事に退院することができた。

「お帰り。待っていたよ。よくがんばったね。みなでお祈りしていたよ」とあったけのことばでTさんを励ました。退院したTさんは車椅子を使用し、支援を受けながら食事を摂っていたが、数日後には自分で食されていた。おしゃべりも活発で、日中活動に取り組んでいる刺繍も頑張っている。カラオケも大きな声で歌って体調は良好のようだ。また、退院時は車椅子を使用していた

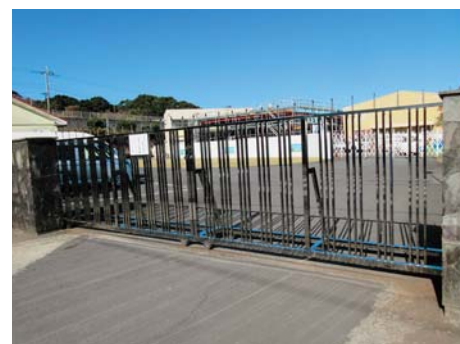
が、2週間後にはシルバーカーを使って歩くこともできた。

ということ、私の不安は杞憂に終わった。そこでTさんから出たことばは「クリスマスはごちそうでると？」

「はい、たくさん出るからお楽しみに。その前にイエス様のご誕生をお祝いする日をきれいな心で迎えることができるよう、まずはお祈りしましょう。そして全世界の人々が幸せになるようお願いながら。」お祈りは得意なTさんです。

増築工事について

令和3年7月14日に起工式を行ってから天候にも恵まれ、順調に工事は進んでいます。細部は設計士と建築コーディネーターから助言を受けながら何度も打ち合わせを行い、利用者様の安全、安心を考慮して決定しております。朝は早い時間から業務に取りかかっている従業員の方たち。大きな「安全第一」という看板



を出勤時に毎日見ながら「今日も一日、ここで働く人たちを事故からお守りください。そして利用者、職員も安心して過ごせる一日でありますように」と祈っています。

正門が新しくなりました

昭和の時代から施設を守ってくれていた「正門」ですが、足の動きが悪くなり錆もひどくなったので引退していただきました。代わって登場した「正門」は防犯も兼ねて以前の門より約43cm高くなりました。おまけに掲示板も付いています。令和4年の春に完成予定の建物とうまくマッチすることと思います。



コロナ禍での
経験を通して

みさかえの園のぞみの家

施設長 田中 伸一

私が施設長になり、新しく副島副施設長・事務長を迎え新体制で運営を始めて9か月経とうとしています。この期間も新型コロナウイルスは終息せず、昨年同様、感染対策のために一斉面会や催事等も中止とし、利用者様をはじめ職員にも不便をかけています。

そのような中、9月某日、利用者様が発熱し病院を受診した際、二度のPCR検査で『陽性反応』が出るという事態が発生しました。病院の方から県央保健所へ連絡をしてもらい、検体採取の上、改めて翌日に保健所の方へ再検査してもらうことになりました。利用者様が施設へ一時帰園し、隔離して支援することとなったため、至急、トイレやお風呂があるブレイルームを「隔離室」として使用しました。時間帯が夕方（時間外）だったこともあり職員が少なく、部屋の片づけやベッドの搬入、利用者様の必要物品や感染対策物品など大慌てで準備をしました。隔離室では、接触者を限定するため特定の職員のみで対応し、防護服を着用して支援を行ってもらいました。普段から利用者様は個室だったため、他の利用者様との接触はなく、利用



者様と接触した職員のみ洗い出し、一人ひとりに連絡をして翌日の勤務体制を整えました

翌日は念のため、他の利用者様には時間差での食事提供や部屋を分けて食事を取ってもらうなど感染対策をより一層強めて支援を行いました。

その後、14時過ぎに保健所から連絡が入り、『陰性』との結果報告を受け、全職員がホッと胸を撫で下ろすことができました。

今回の経験を踏まえ、感染症を想定し施設としてどのような体制をとるべきか、職員の配置はどのようにするかなど再検討する良い機会となりました。また、臨時の職員会議を開催し、職員間で意見交換することによって、感染者が発生した時の対応について深く情報共有することができました。

現在、全国では新型の変異株（オミクロン株）が発生し、新型コロナウイルス感染が急激に再拡大しています。長崎でも日々、感染者数が増加しており、3回目のワクチン接種や内服薬の承認など対策は進んでいます。心配が尽きない日々が続いている状況です。

施設としては、今後もマスクの着用や手指消毒など基本の感染対策を徹底して行い、利用者の皆さんが安心して生活できるように職員一丸となつて対応していきたいと思っています。

のぞみの家 職員として

みさかえの園のぞみの家

事務員 陣内 ミスエ

事務の仕事は 人事・会計・利用者様の預り金管理等の内部の業務、電話対応や来客対応など多岐に亘ります。ほとんどの業務が月毎の締めがあるため、月末はバタバタします。が、皆、業務が滞ることが無いよう心がけています。

また、利用者様の行事では、事前準備の手伝いや利用者様の活動風景を撮影することで交流をしています。このコロナ禍において、行事の見直し、活動の仕方も様変わりし、一番の楽しみであるご家族との面会が思うようにできなくなりました。それでも利用者様は、いつも笑顔で事務所を覗いて挨拶をしに来てくれます。私自身、普段から利用者様との何気ない会話に心がほっこりし、一緒に談笑して癒しの時間をもらっています。

最近、事務所玄関に置いてある
ぷっくりとした葉っぱが印象的な
「金なる木（和名…フチベニベン
ケイソウ）」の土の入れ替えをし、
その際、元気な枝を2本切って小さ
な鉢にそれぞれを挿し木しました。
今ではちゃんと根を張っているのか、
触つても揺らぐことはありません。
新しい葉も伸びてきている状態です。
初めての試みですが、事務員総出で
日々成長を見守っています。「金の



なる木」には、「幸運を招く」という花言葉があります。私がおぞみの家に入職してから、花が咲いた姿は見たことがないので、今年こそは可愛い花を咲かせ、新たな幸福をのぞみの家の皆さんへ運んでくれると期待しています。

12月から1月にかけて、クリスマスツリーの飾り付けやイルミネーションの点灯、新年会など利用者様が楽しみにされている行事が目白押しです。

少しずつ、行事に参加できる利用者様も減っていますが、できることの喜びを感じていただき、達成感に繋げていただけるよう、これからも他部署と連携を取りながらより良い仕事ができますように努めて参りたいと思います。